

# やくわえ

創立五十周年記念記事

小学生のための

## 「夏休み神社体験学習」

―ほくらは神の子―

神社の杜で日本を学ぼう

八月九・十日 於、明治神宮

### 【一日目】

「こんにちはー」元気なかわい  
い声が響く。「二日間よろしくお  
願いします」お母様方の声はどこ  
か不安げだ。五十周年記念の中核  
事業は、このような挨拶から始ま  
った。

我々も募集の際、今時の子供達  
は神社に興味を持ってくれるのだ  
ろうか、ましてや定員は満たされ  
るのだろうか等と不安は尽きな  
かったが、開会式の崇敬会館には絶  
勢五十名の子供達が集まった。保  
護者と一緒の席では静かな印象だ  
ったが、子供達だけになるとそれ  
は「変し、すぐに各班の指導員の  
会員とふざけたり、大きな声で話  
し始めた。

一通り自己紹介を済ませ、まず  
は神社オリエンテーションに出発  
した。これは、渡された指令書に  
基づいて境内の各ポイントを探索  
して歩く。自ずと神社各施設を  
学べる仕組みで、途中でアイスク

クリームを  
食べたの  
で、お母  
様の声は  
少しだけ  
変わった。  
成功を予感させ  
たように、一日目の  
学習は、外泊の興奮と  
寝苦しさとで大多数の子  
供達が、引率の  
を痛感させられた。



No.112

令和7年3月15日発行  
東京都神道青年会

表紙写真  
令和6年7月23・24日  
なつやすみ子供神社体験学習  
平成12年1月1日発行「やくわえ」62号記事

## 二年間を振り返って



会長  
篠の 泰比呂

氷川神社  
禰宜

謹んで聖寿の万歳と皇室の弥栄をお慶び申し上げ、国家の安寧と併せて神宮はじめ各ご社頭のご隆昌、会員、関係各位のご健勝を心よりお祈り申し上げます。

また、畏くも天皇陛下より神宮が御勅許を賜ったことを拝し、第六十三回神宮式年遷宮に向けて本格的に諸準備が進められていることは誠に有難いことであると同時に、一神職として身の引き締まる思いです。国家無双の重儀たる神宮式年遷宮が国民遍く奉賛を以て恙なく進むよう祈念いたします。

令和六年に当会は、東京都神社庁はじめ都内各社神職各位、関係諸団体、多くの先輩諸賢のお力添えを頂きながら創立七十五周年の佳節を迎えました。記念大会をはじめとする多くの記念事業の実施が叶い、無事に完遂できたことは誠に有難く、ご助力頂いた全ての方々に對し、改めて衷心より厚く御礼申し上げます。

脈々と受け継がれる当会の目的であり理念における要は「会員相互の研鑽と親睦を図り、神社神道の興隆を期する」であります。これは斯界興隆の実現はもとより、延いては我が国はじめ世界の平和と発展に寄与することを目的として

いると認識しています。昨今の斯界に目を向けると残念ながら、世界の発展には遠く及ばず、斯界の興隆に寄与できているとは言いがたい実情にあります。様々にご事情と有する正義があることは已むを得ぬことであり、否定することはありませんし、それぞれに信ずるものや想いがあることは人として必要であるとも理解してあります。他方、それらに囚われることは望ましいことではなく、自身が信ずるものこそ注意深く観察し継続的検証がなされるべきと考えます。現在、最良とされるものが今後永続的に最良であるとは限らず、自身の信ずる正義も不変と疑わぬ善もその位置から外れることがあり得ることは歴史が証明しています。研鑽に終わりはありません。自身を信じて疑うことを繰り返して、己を研ぎ鍛えることが人間にも組織にも求められます。そして、

事情や正義に差異はあれども、今斯界に生きる者は遍く、私怨を持つことなく、敬意と仁義を欠くことなく、より良い将来のために、後進に想いを寄せ、親睦を図りつつ調和と和合を希求すべきと思つて已みません。

紡がれた歴史から過去を顧みれば、多くの問題や衝突は、人間の弱さと愚かさの発露であることが理解できます。人間一人一人は決して万能ではありません。しかし、団結と結束を以て少しずつ前進してきたことも歴史が示しています。当会も長い歴史を紡ぎ、良いことも良くないことも共にあったことと拝察いたしますが、より良い未来を求めて着実に歩を進めていきます。それは、先輩諸賢の決意と努力の歩みによって踏み固められた道の上に存在しています。次代を担う者は、その道をより良く整え、更に道を開き、後進へ筋道を示す役目があります。

躍を後進に期待するとともに、自身も努力を怠ることなく進んでまいりたく存じます。二年間、多くの方々よりご指導ご厚情を賜ったことに對し、心より御礼申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



副会長  
内海 通人

東大島神社  
禰宜

この二年間、皆様のご協力を得まして、無事に今期を終えることができました。至らぬ点もあつたかと思ひますが、ここまで来られましたのも諸先輩方をはじめ会員の皆様方の温かいご支援があつたからこそと感謝いたしております。この場をお借りして改めて御礼申し上げます。

また、青年会の七十五周年という大きな節目に実行委員長として携わることができたのは大変嬉しいことでした。一つを終えようと次への課題が見えてきます。その課題をまた一丸となつて新たな課題として模索し、進んで今より更によりよい青年会を作り上げて頂ければと思います。本当にありがとうございます。





副会長  
服部 佑子  
平河天満宮 禰宜

もう振り返る時！ となつてしまふくらい本当にあつたという間の二年間でした。今期は創立七十五周年を迎え、多くの周年記念事業に加え通常事業と様々なことに取り組んでまいりました。個人的には「あの時は」という言葉を発する機会が増えたことに年月を感じた次第です（笑）

コロナ禍により対面からオンラインが当たり前の世界に時代が変化している今。だからこそ人との繋がりの大切さを改めて感じることができたのではないのかと思います。

篠会長から副会長という大役を仰せつかり、役割を全うできたのか疑問を持つ部分が多くありますが、同じ目標に向かって歩む仲間の大切さを私自身学ぶことができました。そして何より、こうして二年を振り返ることができたこと、多くの方々に支えて頂いたことに感謝申し上げます。



議長  
森田 尚久  
磐井神社 禰宜

篠会長より議長を仰せつかったから早二年。令和二年より猛威を振るっていたコロナ禍の情勢も落ち着き、これまで制限をかけていた当会の活動を従来通りの内容で実施してゆくことが今期の始まりであった。

過去の活動を振り返ると同時に、創立七十五周年記念大会並びに各種記念事業に向けて準備を進めてゆく中で、後輩たちより相談を多く受ける立場にもなつていた。

相談を受ける度に思い出すのは入会当初、右も左もわからない自分に対し先輩方より指導を賜り、青年会を通じて成長をさせて頂いたことへの感謝・慣れに流されずに常に向上心を抱き諸活動に精励してゆくことの大切さであった。

この二年間でどれだけ成長できなかったかは自分で評価をすることではないが、支えてくださった全ての方々に感謝を申し上げます。

総務部



部長  
高島 俊亮  
天祖神社 禰宜



会計  
渡邊 輝比古  
銀杏岡八幡神社 禰宜

この二年間は奉務神社の式年記念事業と重なり、本社・末社の改修工事・境内整備事業・奉祝祭の真つ最中の任期でした。

任期最初の事業となる定時総会ではプレッシャーなのか膝が腫れ上がり、偽痛風と診断される中、続く新旧交代旅行まで行ったことを今でも鮮明に思い出します。

総務部は円滑な会務運営を担う部であります。役員また会員のご協力もあり、恙無く過ごすことができました。また何より会計・庶務をお務め頂いた部員には不慣れな部長を支えて頂きましたこと、心から感謝を申し上げます。二年間、ありがとうございました。



庶務（事業）  
山中 聡一郎  
田無神社 権禰宜



庶務（広報）  
船田 睦子  
穂田神社 宮司



庶務（渉外）  
千葉 布子  
稲荷神社 権禰宜



庶務（教化）  
田村 仁志  
大宮八幡宮 権禰宜



庶務（教養）  
鶴岡 慶子  
天沼八幡神社 禰宜



庶務（総務）  
榎本 光孝  
諏訪神社 禰宜

教養部



部長 佐和橋 義之  
深川神明宮 宮司



副部長 豊田 芳亮  
田無神社 権禰宜



幹事 椿 拓磨  
穴守稲荷神社 権禰宜

入会四年目でいきなり責任ある部長職を拝命し、右も左もわからない中での始まりでした。教養部は研修会の実施を担う重要な役割を持つため、講師の先生方や受講生の皆様にはご迷惑やご心配をおかけしましたが、皆様の温かいご支援のおかげで、周年事業を含む濃密な二年間の任期を無事に全うすることができました。特に、経験豊富な部員や元部員の皆様には、細部にわたるご助力を頂き、心より感謝申し上げます。この貴重な経験を糧に、来期の青年会運営や今後の社務に励み、さらに斯界の発展に尽力してまいります。

教化部



部長 毛利 勇人  
亀戸天神社 権禰宜



副部長 佐佐木 照展  
小石川大神宮 権禰宜



幹事 牧田 笙  
多摩川浅間神社 権禰宜

教化部部長を仰せつかり、「全氏青協東京大会」・「陵墓勤労奉仕」・神青協周年記念大会と都神青周年記念大会この両大会における「物故者慰霊祭」、他にも多くの事業を行い、神職として人生勉強にもなりました。最後には周年事業の締めくくりになる「国内慰霊祭」も担当し、教化部部員と共に一丸となり、無事に納めることができました。

未熟な部長でありましたが、部員の皆様にご協力頂き無事に終えることができ感謝いたします。

渉外部



部長 齋藤 剛  
下高井戸八幡神社 宮司



副部長 田村 康晃  
渋谷氷川神社 権禰宜



幹事 佐々木 義修  
櫻田神社 宮司

今期は大鳥居監事が神青協会長を務める特別な二年間であり、都神青の事業は元より、一七協、神青協の各種事業にも多くの会員に参加して頂くことができました。毎年行われる八月十五日の慰霊祭においては初めて「光舞」を奉奏し、慰霊の誠を捧げることができました。

事業が多く忙しい二年間でしたが、多数の会員にご参加、ご協力頂きましたことに感謝申し上げます。特に会務運営にご尽力を頂いた渉外部三役、担当庶務の皆様には厚く御礼申し上げます。

広報部



部長 本橋 知子  
馬橋稲荷神社 権禰宜



副部長 藤ヶ崎 智栄  
浅草神社 権禰宜



幹事 田部 景子  
初音森神社 権禰宜

会報誌『やくわえ』の名前は、勢い良く伸びて逞しい桑の姿が、青年神職の姿に相応しいと命名したのだと、刊行当時青年会に在籍していた祖父から聞いていました。また周年記念大会の動画作成の際には、祖父と父のアルバムを漁り写真を集め、これは何の写真かと質問攻めに。問えば答えが返ってくる環境は有難く、また青年会の歴史を体感できました。同時に『やくわえ』・七十五年の歩みをまとめる作業は私に課せられたお役目だったのかも感じています。二年間至らぬ部長でしたが、皆様には心より感謝申し上げます。



事業部



部長 渡邊 喬弘  
千住本氷川神社 禰宜



副部長 園田 治穂  
八幡神社 禰宜



幹事 篠原 萌花  
穴守稲荷神社 権禰宜

今期、自身初の部長職をお預かりし、事業部として間もなく二年の月日が経とうとしています。私的には激動の二年間で事業部員の皆さんには沢山支えて頂き、お陰様で賑やかな事業を展開することができたと思っております。「会員相互の親睦を図る」という目的に関しては達成できたのではないかと感じております。この経験を活かし、向上心を持って実りある歩みを進めてまいれる所存です。二年間、事業部三役はじめ、部員皆様には多大なるご支援とお心寄せを頂きましたこと、深く感謝申し上げます。

監事



大鳥居 良人  
亀戸天神社 宮司

今期は都神青監事という役をお預かりすると共に、神青協会長として出向させて頂きました。様々な活動に取り組み、多くの人と接する中で何よりも感じたのは「自分より大変な人はいくらでもいる」ということでした。これまでは心の弱さから、自分の悩みや苦勞が大きなものであると考えてしまうことが多くありました。「己に厳しく」と戒めているつもりでも、まだまだ甘いということを痛感しているところです。それと同時に、学ぶ姿勢さえ失わなければ、どんな状況でも人は成長できることを改めて感じました。年齢や立場、環境などが異なる青年神職同士が協力し、時にはぶつかり合い、切磋琢磨していく場所、それが青年会です。会員の皆様には青年会活動を通じて多くの仲間との絆を強くして頂ければ幸いです。今後も学び得た経験を都神青の発展に繋げられるよう努



山口 祐樹  
雉子神社 禰宜

振り返るとまさに都神青の底力が試された二年間だったのではないのでしょうか。大鳥居監事を神青協会長へと送り出す中で迎えた神青協七十五周年記念大会、そして、都神青としても数々の七十五周年記念事業に邁進してきました。全国からこれまで以上に注目を集める中、篠会長を中心に役員会員一丸となって、その熱意と団結力を遺憾なく発揮してくれたと感じています。本当にお疲れさまでした。また、現役最後の二年間、監事というお役で関わらせて頂き心から感謝しております。青年会に入会して十年。会の活動を通じて得た多くの先輩や仲間たちとの繋がりは、かけがえのないものとなりました。そのゴールで、後輩たちが成長していく瞬間を間近で見られたのは幸せなことでした。これからも「若さ」を武器に走り続けて下さい。応援しています。



平岡 好仁  
幸稲荷神社 宮司

コロナ禍であっさりと都神青も卒業、これが本来の道筋でした。しかしながら篠会長より今期の監事を仰せつかるお話を頂き、だったらこの二年間は悔いの無いようにしなくてはと心に決めておりました。後輩に全てを託して各々の活躍を見届ける、それがこの二年間です。監事という立場上、それぞれの活動に意見しながらも口を挟み過ぎないようにするバランスは未だに慣れません。しかしながら、今期は初めて部長に就任した役員も多く、各部共に慎重に事業を進めていたことで大きな問題もありませんでした。特に今期は創立七十五周年記念大会でそれが顕著に表れていたと思います。三役・各部長の皆様には改めて感謝申し上げます。これで無事に見届けることもできましたし悔いすることなく卒業できます。ありがとうございました。

# 活動報告

## 神道行法錬成研修会

七月四日・五日の二日間にわたり神道行法錬成研修会が武蔵御嶽神社御神域に於いて篠直嗣・奥野雅司両道彦、清水祥彦・栗原健人・細野喜久各助彦のご指導のもと、都神社庁石倉義康理事をはじめ総勢三十五名にて開催された。

今回は半数以上が初めての参加で、開講式から張り詰めた面持ちの方が多く見受けられたが、綾広の滝に着き、いざ鳥船行事となれば気合十分の音が厳肅な御神域に響き渡った。

夜間講義には、神社巡拝家佐々



木優太先生に「佐々木優太が考える御師としての働き」御師活」と題してご講演頂いた。参拝者目線の神観念、普段我々神職の気がつかぬことなどハツとすることをお話しされ、社頭奉仕においての自己を省みることができたのではないだろうか。佐々木先生は禊行にともにご参加頂いた。

印象に残るものとして奥野道彦の「時間に余裕がある。今一度お水を頂きたい者は前へ。」の声掛けには全員が足を前に進め、まさしく志一つとした錬成会であった。また今回は、周年事業記念品として長年にわたりお世話になって

いる麻知家様に感謝の意を込め几帳一対を贈呈した。(豊田芳亮)



# 周年事業

## なつやすみ子供神社体験学習

七月二十三日・二十四日、明治神宮御神域に於いて、都神社庁主催・都神青共催にて、「第二十四回なつやすみ子供神社体験学習」が「感謝」ありがとうの気持ちを大切に「をテーマに開催され、五十二名の子供たちが参加した。

今回は五年振りに宿泊を伴う行程となり、執行部では綿密な会議が繰り広げられた。宿泊経験者が少ない今、不安もあったが、スタッフ皆が力を合わせ、大きな事故もなく無事に終えることができた。

一日目には敬礼作法を習う作法の時間、都神青演劇同好会による「感謝の気持ちの伝え方」狛犬阿吽の日常」を鑑賞。終演後は、十二月に開催を予定している創立七十五周年記念事業「御朱印展」



東京の神社御朱印大集結」に合わせ子供たちが「御朱印帳作り」に挑戦する場を設けた。多種多様な御朱印帳ができ、様々な体験と共に、子供達にとって思い出に残る日となったであろう。

二日目は早朝に禊行や朝拝を行い、その後各班対抗クイズラリーを行った。午後は雅楽を鑑賞し、閉講式まで子供たちは充実した時間を過ごした。



また、昨今は夏場の気温上昇が異常で体調を崩す参加者もいた。今後は、より一層の注意と態勢を整えていかなければならないと切に思う。

(渡邊喬弘)



なつやすみ子供神社体験学習



リーダー班  
品川明日香  
新田神社  
欄宜

五年振りの宿泊での体験学習。昨年参加した子供達から泊まりが良い、もっといたいという声を聞いていたので、リーダーとして子供達と濃い時間を共に過ごせたと、本当に嬉しく思う。

猛暑で体調不良者が出たが、各班の手厚いサポートや尽力のもと達成でき、子供達の笑顔をたくさん見ることができた。クイズラリーがほぼ室内で完結できる形だったことで体調が優れない子も安心した様子で参加していたことが印象的だった。

一番近い距離感で過ごし全力で一緒に楽しみ、成長や変化に気づけるリーダーの特権をフル活用し、心の距離がどんどん近くなるのを感じた。リーダーというポジションで携われて幸せだ。この体験学習が、子供達の未来のどこかで何かの役に立てたら良いなと願う。



生活班  
瀬瀬 誠幸  
六所神社  
欄宜

今年も猛暑の中ではあったが、無事になつやすみ子供体験学習を終えることができた。この体験学習がどんな意味をもつのか、私なりに考えてみた。

まずは、子供たちが神社作法を知り、学ぶことにより日本の歴史に興味を持ち、将来自分達が社会の担い手になることを意識し成長していくこと。

次にこの体験学習を実施するにあたり、沢山の大人たちが携わり将来の担い手となる子供たちを育てていること。

育つもの、育てるもの、昔から続いてきたこのつながりこそに意味があるのではないだろうか……。この体験学習を通じて、過去からのつながりと、未来へと進んでいく意味を感じ取ってくれていることを願う。



プログラム班  
鶴岡 涼  
天沼八幡神社  
権欄宜

私は今年四月に都神青に入会し、「なつやすみ子供神社体験学習」にスタッフとして初めて参加させて頂いた。

プログラム班の一員として、一日目は主に御朱印帳作りのサポートを、二日目はクイズラリーの進行を担当した。猛暑ということもあり、屋外でのクイズラリーを室内に変更するなど臨機応変な対応が必要だったが、スタッフ同士の密な連携によりスムーズに行うことができた。

当日は多くの神社関係者がいたため、自分としても新たな繋がりができたと共に、子供達の積極的で楽しそうな姿を間近で見ることができて有意義な二日間であった。参加した子供達が、神社のことについて興味を持ってくれるきっかけとなったら嬉しく思う。



演劇班  
神田 達也  
亀戸天神社  
権欄宜

今回初めてなつやすみ子供神社体験学習に、リーダー班・演劇班として参加いたしました。

当日はリーダー班として子供の立場で考えろという慣れない内容でありましたが、自分自身が子供たち以上に楽しむことで、班員の子供たち一人一人と等身大で対話をしながらプログラムを進めることができました。

演劇班では、全くの未経験のなか約一ヶ月の練習を経てなんとか無事に終えることができ、劇が終わった後、子供たちが役名で声を掛けてくれたり、劇中でのダンスと一緒に踊ってくれたり、劇をやりきった満足感と楽しんでもらえた安心感を得られ、未経験ながら飛び込んでみて良かったです。例年以上の酷暑の中、子供たちと共にスタッフ陣も熱中症対策に努め無事終えることができたこと、大変安堵しております。



## 周年事業

都内戦災震災殉難者慰霊祭  
並びに靖國神社参拝

戦争や震災で亡くなった東京都内の御霊を慰める都内戦災震災殉難者慰霊祭が八月十五日、東京都慰霊堂にて執り行われた。都神青が主催し約九十人が参列、御霊の安寧を祈った。

慰霊祭は、関東大震災や東京大空襲などで亡くなった約十六万三千体の遺骨が納められている東京都慰霊堂で、終戦の日に毎年斎行している。関東大震災から百年を迎えた昨年に引き続き、上皇上皇后陛下の御製、御歌から作られた「光舞」が奉奏された。

その後靖國神社に移動して正式参拝を行い、英霊に感謝と哀悼の誠を捧げ平和を祈った。(齋藤剛)



## 周年事業

T S S 懇親会

八月二十八日、穴守稲荷神社・JALスカイミュージアム・羽田空港ギャラクシーホールにて都神青創立七十五年記念事業

「TSS懇親事業」を開催し総勢五十三名が参加した。

まず穴守稲荷神社を正式参拝し、井上直洋宮司よりご挨拶を頂戴した。参拝後JALスカイミュージアムを訪れ、格納庫内では飛行機が間近で飛んでいる様子を見学した。見学終了後は邸内社にて篠泰比呂会長に合わせ列拝し、羽田空港の空の安全を祈願した。懇親会は羽田空港ギャラクシーホールにて、夜の滑走路を目の前に開宴された。

(篠原萌花)



## 周年事業

創立七十五周年記念大会

十月二十八日、東京ドームホテルに於いて当会創立七十五周年記念大会が執り行われ、来賓・会員合わせ二百五十名を超える参加者が集まった。

前日も会場にて準備・細部の最終確認を行い、当日、都神青会員は午前十時に集合し、集合写真撮影の後、各担当部署に分かれて最終の準備を行った。

午後一時より物故者慰霊祭が斎行された。森田尚久議長が斎主を務め、過去五年間の物故者各位の御霊をお慰め申し上げた。

午後三時より記念式典が執り行われた。服部佑子副会長の開式の辞に始まり、神宮遥拝、国歌斉唱、牧田笙教化部幹事の先導により「敬神生活の綱領」唱和と続き、篠会長が式辞を述べた。次に周年実行委員長である内海通人副会長が周年事業報告を行った。その後、都神社庁清水祥彦副庁長、神青協大鳥居良人会長より祝辞を賜った。祝電披露の後、「神道青年の歌」を斉唱、山口祐樹監事の先導によ

る聖寿万歳奉唱、森田議長による閉式の辞にて記念式典は厳肅裡に終了した。

午後四時からは歌舞伎役者中村獅童先生をお迎えし、「中村獅童の挑戦〜伝統と革新〜」と題したご講演を頂いた。

記念祝賀会は午後六時より行われ平岡好仁監事の開宴の辞にて祝賀会が始まり、都神社庁宮崎久嗣副庁長より祝辞を頂き、鏡開きの後、第十八代会長阿部明德先輩のご発声により乾杯が行われ、祝宴が始まった。和やかな雰囲気の中、参加者は互いに懇親を深め、会場は多めに盛り上がった。参加者一同「美はしき山河」斉唱の後、土師幸士筆頭相談役による手締め、大鳥居良人監事の閉宴の辞にて記念大会は盛会裡に終了した。

(田村仁志)



### 雅楽研修会

十一月二十二日、都神社庁に於いて二十名近い受講者参加のもと、雅楽研修会が開催された。都神社庁雅楽講師小野貴嗣先生をはじめ小野雅楽会より鳳笙・箏・篳篥・龍笛の講師の先生方をお招きしてご指導を頂いた。



開講式にて先生方より研修を受けるに当たっての心構えをご教示頂いた後、早速各管分かれての稽古を開始した。最初に楽器の扱い方や唱歌など基礎的な稽古を行い、初心者・経験者問わず課題曲である平調の「音取」「越天楽」「五常楽急」を身体に染み込ませてゆくように何度も歌う。実際に楽器を吹く際にも、先生方が一人一人の音を聴き、それぞれの技能に合わせて、初心者は基本的な指づか

いや息づかい、経験者は基礎的な部分にも注意しつつ応用的な内容のご指導を頂き、学びを深めることができた。

研修の最後には、合奏演習を経た上で各管最後の仕上げを行い、その後、都神社庁神殿の御神前にて、



受講者による奉納演奏が行われた。緊張感に満ちた空気が漂う中でも、経験者が音頭となって全員が一体感を持ちながら、受講者各々が研修成果を発揮することができた演奏となり、先生方からも「全体的に大きな上達が見られる」とのお言葉を頂いた。

本年は一日のみの開催という時間が限られる中での研修であったが、参加者は今回の研修で得た経験を糧にして、日々の神明奉仕に励んでゆけるだろう。(椿拓磨)

### T S S 忘年会

十一月二十七日、世間と比べて少し早めの忘年会が「もんじゃや風月 月島店」にて行われた。例年箱根や熱海などの東京近郊で「忘年旅行」を行っているが、昨年は現役会員の参加者が少ないことが反省として挙げられたため、今年からは社務終わりに参加できるように夕刻から、宿泊を伴わない形式での開催となった。



当日は正賛会員のみならず、ご家族、都神社庁職員も加わって、五十名の参加となった。これも篠会長と渡邊喬弘事業部長の人望の厚さの賜物であり、忘年旅行のままであったらここまでの参加者数にはならなかったかもしれない。会の中盤にはスマホ上で扱えるルーレットとカードを使ってビンゴゲームを行い、賞品のカタログギフトや、よみうりランドペアチ



ケットなどを懸けて、大いに盛り上がった。三、四人ずつで一つの鉄板を囲み、もんじゃから始まり、デザートのある巻きまで、各席各鉄板で個性が溢れる楽しい会となった。(園田治穂)



# 周年事業

## 御朱印展 —東京の神社御朱印大集結—

十二月十二日～十六日の五日間、銀座アポロ昭和館YOHAKUに於いて「御朱印展—東京の神社御朱印大集結—」が開催された。都神青創立七十五周年記念事業の一つとし、二百二十五社からご協力頂き都内で初めての開催となった。初日十二日は、会場清祓の後、設営準備を行い午後五時から関係者対象の内覧会を行った。



翌十三日からは一般の方を迎え多くの方に来場頂いた。初めての試みだったので不安も多かったが、約五千人的の方々に来場頂いた。また今回外部の業者にも協力頂き、デザイン監修のみ携わった御朱印帳等の記念品の販売も会場内で好評を得た。

最後に本事業開催にあたりご協力頂きました皆様方に感謝申し上げます。

(服部佑子)

## 不易流行

まず、昨年十一月の三笠宮妃百含子女王殿下の薨去は哀悼の極みであり、慎みて哀悼の誠を捧げる次第であります。また、能登半島地震から一年が経ち、未だ復興への道が見えない状況です。

世界に目を向ければ、アメリカではトランプ氏が大統領に返り咲き、ウクライナとロシアの戦争は未だに終結とは程遠い状況である。中国に関して、沖縄県の尖閣諸島の沖合への中国海警局の船四隻が相次いで日本領海に侵入し、南シナ海上空をパトロールしていたオーストラリア軍機付近では中国軍機が照明弾投下、など予断を許さぬ状況です。

一方、我が国は大東亜戦争終戦八十年、昭和百年という節目を迎えます。大東亜戦争終結から八十年の間には、さまざまな歴史があり、主権回復七十二年、沖縄本土復帰五十三年と、「終戦」すべて終わった」とは言えませんが、現在の生活を営むことができるのは、英霊をはじめ、各地にて役割を担い戦闘等に巻き込まれた戦死者や戦後に復興を支えた諸先輩方によ

るものです。そうした方々への慰霊事業を我々青年神職も大切にしており、毎年東京都慰霊堂の祭典と靖國神社参拝を行っています。また、周年には国内各地や海外に赴いて慰霊祭を斎行しています。

改めて「慰霊とは？」と考え調べていくと、「死者の霊を慰めること」と辞典にはあります。また、教養講座でも度々ご講義いただいている中山郁先生は、慰霊巡拝中と限定的且つ条件付きではありますが、慰霊祭の対象について次のように述べておられます。

慰霊巡拝中には、戦没者の霊魂に対して祭祀を行う……神職にとって現地の慰霊祭でまつる対象は、「英霊」であり「祭神」であるものの、同時にその戦場で死んだ「戦没者の霊」という、死霊の属性を兼ね備えたものとして認識されているといえよう。

中山先生のお言葉を借りるなら、我々神職は慰霊祭斎行時に「霊魂観」を再度考えて奉仕することが肝要です。創立七十五周年の記念事業では、八丈島での国内慰霊祭を「靈魂観」について再考し、現地では当時の出来事や場所を見聞きし、奉仕していく所存です。



# 二ユース

## 神道人野球大会

八月七日、神道人野球大会が明治神宮球場外苑軟式野球場で開催され、靖國神社・明治神宮・いちい会・國學院大學・神社本庁と共に都神青チームも参加した。

大会は靖國神社チームが優勝、むらさき会チームが準優勝した。我がチームは一回戦いちい会と対決し勝利したが、むらさき会に敗戦、最後は三位決定戦で國學院大學に勝ち、三位で大会を終えた。

今大会にあたっては練習時間が少なかつたものの、この結果を踏まえて現在は月に一、二回の練習を行っている。個が持っているポテンシャルはどのチームよりも高いと自負もあり、日高将光監督を中心に一丸となって来季は優勝を目指したい。  
(服部高明)

## 東西神社人親善野球大会

八月二十日、東西神社人親善野球大会がプロ野球・中日ドラゴンズの本拠地であるバンテリンドームで開催された。

全七チームが参加し、選手たち

の熱気が球場を包み大会の幕が上がった。東京チームは初戦に兵庫県チームと対戦。序盤から勢いよく足を使った攻撃を展開し、快勝した。



決勝戦では前年の大会で敗北を喫した太宰府・宗像チームと対戦し、試合は一進一退の攻防が繰り広げられシリーズゲームとなったが、規定の試合時間内では勝敗が決まらず、優勝を懸けたジャンケンが行われた。結果、見事に東京チームが勝利を収め四大大会ぶりの優勝を果たした。  
(河野浩治)

## 神青協夏期セミナー

本年も八月二十二日・二十三日に神青協主催の夏期セミナーが神社本庁に於いて開かれた。社界がどのように国際情勢やデジタル化の波と向き合っていくのかを考えるため、東京都からも九名が参加した。

まず、岩田清文先生が国際的な

有事にどう備えるかを語られた。次に、藤原岳史先生に、自身が取り組む歴史的資源を生かした地域振興について講義を受けた。最後に、後藤正宣先生より、社界がより知るべきであるデジタル化の詳細について教えて頂いた。

(湯田正志朗)

## 神青協創立七十五周年記念事業 竹島領土平安祈願祭

九月五日に隠岐の島に於いて神青協主催、隠岐の島町・中国五県青年神職協議会・島根県神道青年協議会の共催のもと、竹島領土平安祈願祭が斎行された。

まず隠岐国一宮水若酢神社に正式参拝をした後、竹島の碑の前で祭典を行った。祭典では韓国による一方的な不法占拠により命を落とされた方々の御霊を慰め、竹島問題のいち早い平和的解決、日本海が幾久しく穏やかな海であるようにと祈りを捧げた。



祭典終了後、景色の良い港で直

会を行い、清興として島後久見神楽の演舞や隠岐の美味しい山海の幸が振舞われた。  
(田村康晃)

## 一都七県神職野球大会

九月十日、第二十八回一都七県神職野球大会が大井ふ頭中央海浜公園スポーツの森野球場に於いて、千葉県神道青年会の主管により開催された。

天候が心配される中ではあったが、当日は晴天に恵まれ、東京、神奈川、埼玉、山梨各県、栃木・群馬連合、千葉・茨城連合の合計六チームが参加した。

東京チームは一回戦、栃木・群馬連合チームとの試合に挑んだ。序盤から熱い投手戦が続いたが、東京チームの本塁打を機に試合が動き、接戦の末勝利を収めた。続く二回戦の千葉・茨城連合チームとの試合も一回戦同様緊迫した展開であったが無事勝利し決勝に駒を進めた。



決勝戦では、神奈川チームとの試合となった。序盤から得点を許

し、厳しい展開の中、同点に追いついたもののすぐ突き放され、健闘空しく敗退を喫した。

決勝戦で敗れ惜しくも二位に終わったが、皆が笑顔でプレーし、運動を通じて親交を深めることができた。  
(神田達也)

### 神青協 硫黄島訪島事業

十月十三日・十四日、神青協の硫黄島訪島慰霊事業が（公社）日本青年会議所関東地区協議会並びに（公財）日本文化興隆財団の共催のもと行われた。今回は島の水不足により、八月の予定が十月に延期されての実施だった。

一日目はマロウドイン飯能会議室にて結団式と事前研修。またご遺族の方々より、参加への想いを語って頂いた。

二日目は早朝よりバスで入間基地へ向かい、自衛隊機にて硫黄島へ。まず「硫黄島戦没者の碑」（天山慰霊碑）にて慰霊祭が執り行われた。その後は大阪山砲台、医務科壕、兵団司令部壕、水際トーチカ等の戦跡を、説明を受けながらまわり、再び入間基地へ戻って解団式となった。  
(中川岳士)

### 一七協親睦フットサル大会

十一月六日、国立代々木競技場フットサルコートに於いて、一七協親睦フットサル大会が千葉県神道青年会の当番で開催された。

今回の参加者は総勢六十八名と昨年より二十名多く、東京からは都神青九名とむらさき会七名の二チームが参加。一年に一度のフットサル大会に参加者は疲労困憊の様子ではあったが、その後の懇親会まで他単位会との交流が深められ、有意義な大会となった。都神青は長らく下位に低迷しているが、今後は定期的な練習を実施し、優勝を目指し多くの都神青会員の参加を募っていききたい。  
(田村仁志)



### 神青協臨時総会

神青協の臨時総会が十一月十九日に本社本庁大講堂に於いて開催された。

本総会では、来年四月からの次期会長に北方宏和氏（北海道・札幌諏訪神社禰宜）、監事に柳原永祥（愛媛・厳島神社禰宜）・佐山崇（宮城・八坂神社権禰宜）・小佐野正崇（山梨・富士山小御獄神社禰宜）の各氏が選出され、承認された。副会長以下の役員に関しては来年四月に予定されている定例総会で承認される。



北方次期会長は承認後の挨拶で、臨時総会の当日と自身の誕生日が重なったことについて言及し、会場内の笑いを誘った。  
(田村康晃)

### 神青協 令和六年能登半島地震復興支援

十一月二十五日・二十六日、神青協による令和六年能登半島地震復興支援活動が行われた。全国より延べ五十六名の青年神職が参集し、当会からは六名が参加し、被災神社の支援活動を行った。

一日目は、二班に分かれ石川県輪島市内のお社三社の支援を行った。里町鎮座の南志見住吉神社では、地震及び豪雨により社殿は全壊し、社務所も水・電気の使用はできない状況であり、崖崩れにより社殿はじめ境内には多くの土砂が流入していた。重機の使用も困難な状況下、人力で土砂や岩など詰めた土嚢袋をリレー形式にて運搬し、四百個余りを搬出した。しかし、土砂を撤去できたのは一日がかりで全体の一部にすぎず、今後も支援が必要であることは明確であった。また、興徳寺鎮座の白山神社、市ノ瀬鎮座の日吉神社では、地震により社殿内が荒れ、大量の埃や粉塵が舞う中、防塵マスクやゴーグルを着用し、社殿の清掃や不要物の解体等を行った。  
二日目は、珠洲市正院町鎮座の須受八幡宮、火宮神社と、鳳珠郡



能登町松波鎮座の松波神社の三社の支援を行った。主に社殿内の清掃及び境内の樹木伐採を行った。

支援活動終了後、松波神社の橘重克宮司の案内により、石川県指定天然記念物及び名勝に指定されている見附島を見学した。同島は過去の地震で崩落が進んでいたが、今回の地震で更に崩落が進んだとのことであった。震災の影響により、同地域の神社の合祀が今後進むであろうことが橘宮司より語られた。また、「明日は我が身ですよ。」と仰っていた橘宮司の言葉が強く頭に残っている。被災地復興の難しさと継続支援の重要性、そして何より、自身が属する地域、奉職するお社の防災の必要性について考えさせられる復興支援活動となった。

(篠泰比呂)

### 神青協「光舞」講習会

十一月二十八日・二十九日、國學院大學若木タワー十八階有栖川宮記念ホールにて、「光舞」講習会が開催された。小野雅楽会の小野貴嗣先生をはじめ、小野亮貴先生、白銀尊先生を講師としてお迎えしご指導頂いた。全国から四十二名が参加し、そのうち東京からは四名が参加。集まる同志との懇親が深められた。

一日目は基本的な動きと一人舞と一藪の動きをご指導頂き、舞うための基礎を作り上げていく。二日目は四人舞をご指導頂いた。四人がそれぞれ違う動きとなるため、改めて難しさを実感するところである。

受講生同士が休憩時間に共に練習をしている様子や、四人舞で組んだ人と励む姿が見られ、有意義な講習会であった。

(千葉布子)



### 一七協研修会

十二月五日、明治神宮に於いて一七協研修会が行われ、都神青からは九名が参加した。

当日は明治神宮大前にて正式参拝、その後社務所講堂にて国際神道文化研究所主任研究員の今泉宜子先生による講演を拝聴した。皇室と福祉の観点から昭憲皇太后基金の歴史や活動について学んだ。

研修会後は、とんかつにいむら本店にて忘年会を行った。名物のとんかつは口に運ぶとサクサクとした食感がとても心地よく、肉汁が口いっぱいに広がった。一都七県の青年神職が一年間の労を労い、来年の活動へ向けて団結を深めた。

(齋藤剛)



### コラム

現代社会は実に目まぐるしい。便利は却って情報やモノを増やし、人々もその処理に追われ、社会的時間あまりに速くなってしまった。そんな世の中に採まれば、自分を犠牲にしてしまう人が増えるのは無理もない。

私たち現代人が自分を見失わないためには何が必要だろう。それは神明奉仕にも通ずる「言霊」であると考えている。

言霊の本質は、物事に対する視点である。人は何かと両極的に物事を捉えがちだ。ポジティブ❖良いい状態・ネガティブ❖悪い状態という思考を手放して、全てを受け止めてあげよう。

今現在、貴方がこのままでは駄目だと思ってしまうのであれば、「このままの自分でも大丈夫。それでも明るい未来に進んでいるのだ。」と考えてみよう。不思議と少しだけ肩の荷が下りる。

貴方の一番の味方は自分自身である。言霊はきつと背中を押してくれるだろう。



【新入会員紹介】

千代田区

伊豆田 ちえり

神田神社

松下 瑛佑

神田神社

小山 美咲

神田神社

前川 大成

神田神社

金鑽 和樹

日枝神社

松井 晴基

靖國神社

中央区

有馬 里佳

水天宮

渋谷区

野口 正隆

明治神宮

田村 泰達

明治神宮

立野 直嗣

明治神宮

藤井 秀郷

明治神宮

佐藤 樹

明治神宮

西川 史紘

明治神宮

宅野 晃裕

金王八幡宮

田村 康陽

渋谷氷川神社

品川区

森田 義崇

居木神社

大田区

平山 和樹

多摩川浅間神社

早田 幸多

多摩川浅間神社

北多摩

松野 伽耶

大國魂神社

佐々木 孝

大國魂神社



編集後記

▼皆さまも同様にご多忙にも関わらず、私は兼業という自己都合で都神青の活動、取組みになかなか参加せずに広報部の皆さまにもご迷惑をかけ続けました。無に近い微力で貢献できたかも怪しくここで編集後記を認めるのも恐縮しています。それでも広報部に所属させて頂けたことに感謝しています。ありがとうございます。(西)

▼約十五年の青年会活動の内、五期十年は広報部。やくわえ復刻版を見返しながらの校正作業、文字ずれや文字化けに苦戦したPC作業、表に出せないオフショットも沢山撮った記録撮影。データ化、ペーパーレス化が進んでも、この会報誌は紙でも出し続けてほしいと願いつつ、最後の編集後記です。ありがとうございます。(瑛)

▼今期はなかなか校正部会に出られず、本橋部長にはご迷惑をおかけいたしました。またカメラマンの人材が不足していたらお声かけください！(細)

▼広報部を二期四年、「やくわえ」の校正を行う度に言葉は難しいと思ってきました。句読点一つで読

み手が受け取る印象ががらりと変わることもあり、毎回悩みながらの校正作業でしたが、そのお陰で多少なりとも語彙力や言葉の使い方が鍛えられたはずです。今期で卒業となりますが、今後も正しい言葉遣いを意識していきたいと思っています。(宮)

▼初めて「やくわえ」の編集に携わったのが、十年前の第九十三号でした。コロナ禍を機にZOOMでの校正部会が主流となりましたが、遅くまで膝をつき合わせての校正作業もい思い出となっています。「やくわえ」は広報部員の努力の結晶！これからも楽しい「やくわえ」を期待しています！(祐)

▼初めての副部長という大役。更には初めての周年。怒涛の日々でしたが、かけがえのない経験をさせて頂き、感謝しかありません。ラインのやり取りを読み返して、時折クスツとなりつつ、青年会での日々を思い返しています。部長考案の八桑枝モチーフもついに完成！本橋部長、本当にお疲れ様でした！(藤)

▼春になると川沿いで楽器の練習をする人が増え、窓を開けるとよく聴こえてきます。この前は龍笛

で越天楽を吹く人がいました(顔見知りの方だったりして)。生活音の中で聴く雅楽もまた素敵です。今期も原稿集めをはじめ場所問わずできることを割り振って頂き、無理なく広報部に参加することができました。ありがとうございます(景)

▼篠会長の就任挨拶「会員一人一人の内に秘めたる想いの灯を集め、歴史から学び、今に活かし、未来を照らす」の言葉から構想し、考えたのが今期四号分の表紙です。青年会主要事業の初期のやくわえ記事と今期の写真を配し、歴史から今へを表現。そして四冊を合わせると未来に向けて勢いよく広がる八鍬枝が中心に現れる……。と、格好いいことを言ってみましたが、素人の私には思ったままにデザインする技術はなく(笑)「やくわえ」を作成印刷してくださった株式会社日本システム印刷様のお力でどうにか形にすることができました。いつも本当に細かい所までご対応頂き、この場を借りて感謝申し上げます。また携わってくださいました皆様にも心より御礼申し上げます。筆を置かせて頂きます。(→言ってみたかったです♡)(知)

- 令和五・六年度 広報部
- 部長 本橋 知子
  - 副部長 藤ヶ崎 智栄
  - 幹事 田部 景子
  - 西山直希・大鳥居瑛子
  - 細野喜久・宮崎仁嗣
  - 鈴木紀彦・濱中貴文
  - 賀陽智之・高橋典子
  - 佐和橋佳利菜・瀧孝平
  - 宇賀神泰典・野中公樹
  - 金子樹代子・春田華奈
  - 吉田麻那・瀧亮子
  - 担当庶務 船田 睦子
  - 担当三役 服部 佑子
  - 担当監事 山口 祐樹



都神青の主な活動と予定

一月二十日 大寒禊錬成研修会 明治神宮  
《関係諸団体の活動と予定》  
二月二五〜二七日

二月一日 役員会⑨ 都神社庁  
神青協 伊勢の神宮  
写真展「神宮の四季」  
と式年遷宮

二月七日 教養講座① 都神社庁  
役員会⑩・連絡会④ 都神社庁  
神田明神文化交流館  
EDOCCO

三月二日 臨時総会 都神社庁  
都氏青協日帰り旅行  
姉崎神社

三月 十日 教養講座② 都神社庁  
日本文化興隆財団  
十八・十九日 神青協 神宮研修会 神宮

三月 十六日 献血奉仕活動 湯島天満宮  
二五日 一七協 研修旅行 浅草神社

三月 二一日 懇親ボウリング大会 サンスクエアポウル  
四月二二日 神青協 定例総会 本社本庁

三月四・五日 国内慰霊祭 八丈島  
六月十七・十八日 一七協創立三十周年 記念総会

四月 十日 役員会⑪ 都神社庁  
四月十六日 定時総会 都神社庁  
新田交代旅行 箱根湯本温泉 「天成園」

四月 十六・十七日 新田交代旅行 箱根湯本温泉 「天成園」  
ホテル・ザ・ウエス トヒルズ・水戸

二月 二八日 主権回復記念日 靖國神社参拝 靖國神社

※青字は創立七十五周年記念事業

部・クラブ・同好会紹介

野球部

募集！初心者大歓迎！  
  
〈連絡先〉  
濱中 貴文  
大鷲神社権禰宜  
03-3858-1132  
昭和31年発足

雅楽クラブ

雅楽を楽しみたい方大歓迎  
  
〈連絡先〉  
香取 正彦  
香取神社権禰宜  
03-3684-2813  
平成13年発足

釣りクラブ

釣果を気にする必要なし  
打ち上げからの参加も歓迎！  
  
〈連絡先〉  
本橋 知子  
馬橋稲荷神社権禰宜  
03-3311-8588  
平成8年発足

フットサル同好会

初心者大歓迎！  
  
〈連絡先〉  
田村 仁志  
大宮八幡宮権禰宜  
03-3311-0105  
平成17年発足

演劇同好会

参加者熱烈募集中！  
  
〈連絡先〉  
関 龍太郎  
八幡神社権禰宜  
tss.geki@gmail.com  
平成23年発足

東京都神道青年会  
東京都港区元赤坂二―二―三  
東京都神社庁内  
電話三四〇四―六五二五代

表紙題字  
第三代東京都神社庁長  
大鳥居吾朗先生